

日本応用地質学会 第2・3回キャリアデザインセミナー開催報告

ダイバーシティ推進特別委員会
喜 里美・山下久美子・味野晴佳・伊藤久敏

1. はじめに

ダイバーシティ推進特別委員会は、応用地質学分野の技術者、特に将来を担う若手技術者が、様々な属性をもつ会員同士の交流を通して「自らの技術的な指向や方向性を自覚できる」「自己研鑽ができる」「自己研鑽により得た能力を発揮して活躍するとともに、社会貢献ができる」ことを実現できる学会を目指している。その一助として、2021年度は「キャリアデザインセミナー」を試行した。2021年6月に、初となる第1回を開催したが、参加者からは新たな取り組みに対して前向きなご意見を多くいただいた。

本稿では、8月19日に開催された第2回、10月13日に開催された第3回キャリアデザインセミナーについて、当日の様子や発表概要等を報告する。どちらもコロナ禍の影響でオンラインのみでの開催となったが、非会員の方や学生の方にも多くご参加いただいた。

2. 第2回キャリアデザインセミナー

本セミナーでは、(一財)地域地盤環境研究所の伊藤浩子氏と、八千代エンジニアリング(株)の磯村 敬氏にご講演いただいた。

伊藤氏は、大阪市立大学大学院理学研究科で修士号を取得後、(一財)地域地盤環境研究所に入所された。二人のお子さんの出産・育児や単身赴任、博士号取得などのご経験から、育児と仕事・研究をどう両立し、キャリアアップを目指してきたかをご紹介いただいた。

はじめに、入社3年目にして、上司の産休・育休や同僚の結婚・出産により業務負荷と責任が増えたものの、積極的な学びとコミュニケーションの姿勢を心がけることにより技術者として成長でき、周囲に評価してもらえたことについてお話があった。次に、自身の出産・育児の経験についてお話しいただいた。産休・育休中は、上司等とメールで定期的にやりとりをして情報共有することによりスムーズに復職できるように心がけたこと、フルタイムで復職したものの育児のために残業や宿泊を伴う遠方出張ができない時期があり、思うように仕事ができず悔しい思いをした一方で、限られた時間で質の高い成果を出すように心がけるようになったこと、夫の単身赴任や親の入院などで家族の育児サポートが得られないなか、市の育児サポートを活用しながら仕事と育児を両立してきたことなどを紹介いただいた。スキルアップについては、学会活動などで積極的に社外の人々と関わることで視野が広がり、目標が仕事の

継続から技術・知識の向上と社会貢献となったこと、大阪市立大学大学院理学研究科の博士課程に入学し、社会人ドクターとなったことなどをお話しいただいた。育児と仕事の両立の過程で様々な制約を受けながら、怒りや悔しいといった自分の感情も原動力として、前向きで積極的な挑戦を続けている伊藤氏のお話は、育児と仕事の両立を模索している世代にはとても参考になるお話であり、参加者からはたくさんの質問をいただいた。

磯村氏は、信州大学大学院理学研究科で修士号を取得された。在学中の地質調査アルバイトなどをきっかけとして、地質コンサルタント会社に就職し、転職も経験された。約23年間のキャリアから、垣根を越えた人との付き合いと、垣根なく議論できる環境が、地質技術者としてのスキルアップにおいて重要であったことについて、経験をもとにお話しいただいた。磯村氏はダム地質分野の仕事を主に手掛けていたことから全国様々な現場を担当されている。そのなかで、応用地質学は経験工学であり、現場で周りをよく観察し真似をして習得することが重要であること、老若男女・分野問わず様々な人と議論することが大事であることを学ばれた。また、学協会活動や建設コンサルタンツ協会ダム・発電専門委員会の副委員長(ダム地質分科会代表幹事)という立場を通して、会社の垣根を越えた人との付き合いがご自身のキャリア形成における糧であったということをお話しいただいた。ご自身の経験をもとにした現場経験の重要さや、自分の所属組織を越えて(垣根を越えて)様々な分野や世代の人々と接点をもつことの重要さについてのご講演はとても説得力があり、キャリアイメージを模索する若手技術者にとって貴重なお話であった。

意見交換では、女性の活躍や社会人ドクターに関する質問等があった。セミナー後のwebアンケートでは、今後のキャリアを考える上で参考になった、元気をいただいた等、ご両名に対し感謝のコメントを多数いただいた。

3. 第3回キャリアデザインセミナー

本セミナーでは、(株)ジオテック技術士事務所の上田脩



写真-1 第2回キャリアデザインセミナー参加者(ビデオオンの方のみ掲載)

郎氏と(株)地圏総合コンサルタントの西柳良平氏にご講演いただいた。

上田氏は、大手の地質コンサルタント会社に3年間勤務後、地元に近い現在の会社に転職され現在3年目である。今回は若手の立場から応用地質業界で仕事をして感じたことについて紹介いただいた。前職の大手企業では、業務スケールが大きく地域に貢献している実感がもてなかった等の理由で転職を決意されたこと、現職では例えば、九州北部豪雨の被災地現場での業務に最初から最後まで携わることができているため、仕事にやりがいを感じられること、地質に関するボランティアに参加したことが、地質を専門としない発注者に分かりやすく仕事内容を伝える上で役に立っていること、会社以外で若手同士が交流できる場が欲しいこと等について講演いただいた。若手の技術者が将来の進むべき道を模索しながらキャリアアップに励んでいるという内容であり、特に若い世代の方々に大いに参考になるお話であったと思う。

西柳氏は、(株)建設技術研究所に就職後、地質部門(主にダム地質、水文地質)でキャリアを積み、理事となり、本年4月からは(株)地圏総合コンサルタントの代表取締役社長になられた。今回は経営者の立場から技術者として知っておきたい企業経営のことについて紹介いただいた。応用地質業界に身を置く技術者として、若い時から①価値観(仕事観の多様性や社員満足度と利益についての認識)、②周辺分野の事業構造と利益、③会社の経営についての知識をもっていることの重要性を指摘された。会社の価値観は会社で過ごしてみなければ判らないこと、ゼネコンと建設コンサルタントの利益率のこと、会社の経営に正解などないこと等の多くの話題を提供いただいた。特に利益の話や会社経営の話は、それなりの立場にならないと意識する機会はないと思われ、大多数の方々にとって貴重なお話を伺う機会になったと思う。講演の冒頭に、経営者になりたいと思っている人はZoomで挙手して下さい、との問い掛けがあったが、ほとんど手を挙げる人はいなかった。実態を反映しているのか、遠慮しているだけなのか、あるいは日ごろ全く意識していないことを問われてとっさに判断ができなかったのか、いずれにしろ興味深い結果であった。

意見交換では、技術士取得に関する情報交換(熱心に指導に取り組んでいる大学についてなど)や、上田氏に対しては、残業時間などの業務量に関する質問等があった。西柳氏に対しては、価値観に関する質問等があった。また、第3回は、長田会長を通して埼玉大学の学生(学部3年生～修士課程)11名がセミナーに参加した。学生からは、本セミナーは今後の就職活動等、将来を考える上で大変に参考になったとの意見が多数寄せられた。



写真-2 第3回キャリアデザインセミナー参加者(ビデオオンの方のみ掲載)

4. お わ り に

第1回から第3回にわたり、若手からベテラン、男性、女性、公的機関や民間企業の方、経営者の方など、多岐にわたる方々にご講演いただいた。参加者数は49名(第1回)、40名(第2回)、58名(第3回)であった。意見交換では、第1、2回は慣れないオンラインということもあり若干緊張感が感じられたが、第3回では参加者からの質問や意見なども出て、盛況な会合となった。また、第3回ではセミナー後、希望者が残って懇親できる時間を設けた。この時はセミナー以上に議論が盛り上がり、活発な意見交換がなされた。オンライン上でも上手く交流の場を設ける工夫が前2回の課題であったが、この時間は非常に有意義なものとなった。今後もセミナー後に希望者が懇親できる時間を設けたいと考えている。

セミナー後に参加者の方を対象に実施したアンケートでは、「満足」という感想をくださった方は全ての回で90%以上であり、継続的なセミナー開催を望む声が多かった。今後聴きたいトピックとしては「民間企業におけるキャリア」や「共働き」「子育て」「介護」「転職」「定年退職後」などのキーワードが挙がった。また、「講師、参加者にもっと多様性をもたせた方が良い」「時間管理」「議論、意見交換しやすい場作り」など、様々な課題についてもご指摘いただいた。これらのアンケート結果を役立て、来年度も引き続きセミナーを開催したいと考えている。

最後に、はじめての委員会主催のセミナーで不慣れななか、試行錯誤しながらの開催になったにもかかわらず、ご講演いただきました講演者の方々、ご参加いただいた皆様に、この場を借りて深くお礼を申し上げます。来年度の開催スケジュールと内容については、学会ホームページ、フェイスブック、ニューズリスト等でお知らせいたします。

多くの方のご参加をお待ちしております。